

編集 後記

本号では、原著1報、公衆衛生活動1報、研究ノート2報をお届けいたします。

原著は、マイナンバー制度が2013年に成立したことを受け、健康・医療・介護などの医療等分野への導入に対して医師が抱えている問題意識を調査したものです。調査会社への委託、インターネットの活用、多職種チームによって量的分析と質的分析の結果をまとめるなど、公衆衛生学分野では目新しい試みがいくつもなされた研究報告です。量的研究と質的研究の分析結果を合わせて、1つの研究成果にまとめる方法を混合研究法と呼び、近年欧米の保険医療分野では広く取り入れられている手法です。今後、わが国でも市民権を得ていくものと思われ

ます。公衆衛生活動、研究ノートは、いずれも地域住民を対象とした規模の大きな調査報告で、読みごたえがあります。まず、地域における健康づくりの推進の一助として、「住民の健康づくりチェック表」を作成し、活用方法を検討した報告。一般市民の健康づくりに関するメッセージの受け止め方の違いを、社会経済的観点から疫学的に分析した報告。そして、高齢者の緊急連絡先登録システム利用者の特徴の把握に、地域高齢者を対象とした質問紙調査と地域包括支援センター職員を対象としたインタビュー調査から成る混合研究法を用いた報告です。

「やってみせ、言って聞かせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という有名な山本五十六の言葉がありますが、この名言に続きがあることを、最近になり知りました。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」本号の掲載論文を一通り読み終え、現在の公衆衛生活動においても、情報を単に提供するだけでは十分ではなく、対象者を理解し対話する双方の関係性がより一層求められている、と感じました。

ぜひ、みなさまが実践された有効な公衆衛生活動の取り組みを本誌にご投稿ください。(小嶋雅代)

次号予告 (第62巻・第8号)

原 著

都市公営住宅における高齢者の低栄養と社会的孤立状態との関連

.....新井清美, 他

研究ノート

地域在住自立高齢者における転倒リスクの関連要因とその性差

.....亀岡スタディ

.....榎本妙子, 他

特定保健指導の効果メタボリック・シンドローム指標の4年間の評価

.....辻 久子, 他

資 料

過疎地域から転出した要介護・要支援者の分析

.....杉井たつ子